

## フシコ イタク 昔話

静岡県伊豆の国市 今井 ノリ子

- ニシパウタラカッケマツウタラ  
イツソロレー 紳士淑女の皆様こんにちは。
- 静岡オロワ エク イマイノリコ  
アリ クレヘ アン 私は静岡から来た今井ノリ子と言います。
- クミチ レヘ 菊地六郎ルウェネ。 私の父は菊地六郎という名前です。
- タント クミチ フシコ オルシペ クエ  
イソイタク ロー。 今日、私の父の昔話をしようと思います。
- 中学生クネ ヒタ サクパ シネ アント 私が中学生くらいの頃、ある夏の日に
- クミチ ハイヤー オ ワ ヤイコプンテ  
クコロ ホシピ。 父はハイヤーよろこびいさんで家に帰って  
きました
- ネエトホ クミチネブワアンペ  
イエルスイ ハウエネ。 今日父は私たちになにやら言うことがある  
そうです。
- 「タント トイタモンライケ アナクネ  
ソモ アキ クシネナー 「今日畑仕事は休みにする
- アノケレナー。」アリ クミチ イタク。 終わりにしましょー。」と父は言いまし  
た。
- クアキ イヨッタ エヤイコプンテク コ  
ロテレケテレケ。 弟が一番に手放しでよろこび、こおどりし  
ました。
- ハポ トウラ トナンチネワ ソエンミン  
タラ オッタ マラプト チェトコオイ  
キ。 私は私の母と二人で家の外に祝宴の用意す  
る。
- クミチ ポロンノ イモココロワ ホシピ  
ワ アン。 父は沢山のお土産を手に帰ってきていたの  
です。
- クミチ オカリ ポンペ ウタラ セナセ  
ナッカ ワ オカイ 子供たちは父の周りに集まっている。
- 「イモココロ！アヤポ〜！」アリ ハウコ 「お土産だ！おどろいた！」と口々に言い  
ました。

クミチ イモカオロワ シネクンネ リッ トルビン サンケワ アニ	父は土産のひとつである茶色のリットルビンから
グラス オロ ビール アプンノ アロロ キンネ オマレ。	グラスにビールを静かにそっと注ぎました。
アイネ ネット アンペ チセコロ ウタラ オピッタ エイメク。	そうしてそれを家族全員に配りました。
ポンペ ウタラ ビール ク カ ソモキ クス アン パケタ ク。	子供たちはビールを飲むだなんて初体験です。
「ソンノ アイヌモシリ アン ペ イワ イ オ。	「本当の北海道がまだあることを祝いましょう。
ネ ウシチ アナクネ シレコトタパン ナ」アリ クミチ イタク。	その場所は知床半島です」と父は言いました。
ネットホ クミチ シレトコ オロワ ホ シビ。	その日父は知床から帰ってきたのです。
「オロタ カムイ ウタラ ネヤ、ポロニ ネヤ コタンコロカムイネヤ	「そこには神様たちも、大きな樹もフクロウも
ユクネヤ、カムイチェブネヤ、タンネカム イネヤ キキリネヤ	蝦夷鹿も鮭も蛇も虫たちも
アンピシ カ エアイカブ ウタラ ヌウ エ コカイワ シクヌシリ	数えることのできない多くのものたちが生きているそれを
クシ キヒ アリ イラン マカカノ ク ヌカラ。	私はこの目ではっきりと見たのです。
エネ クエヤイコプンテク ヒポンペウタ ラ クヌカレ	このよろこびを私は私の子供たちに見せておく
責任アン クス ポンペウタラ	責任があるから私は近いうちに子供たちを
オロタ クトゥラワ クオマン クスネナ ー」アリ クミチ イタク。	そこへ連れて行く」と父は言いました。
ラポッケ「フシコ ネイタ パイエアン ヤッカマタヌプリ	その内に「昔はどこに行くにも冬山を

オイカ パイエアンワトウナシ ノ シレ 超えて行けば近道で早く着くことができ  
パアン。」 た。」

アリ クミチ ハウキ ワ フシコ イタ と父は昔話を始めました。  
ク オアシ。

クミチ ヤイレンカネ エカシウタラ フ 父は上機嫌で祖父、祖母たちの昔話をし  
チウタラ フシコ イタク キ

ネワ アンペ クス ルスイ コロ クア それを私は聞きたがっています。  
ン。

モシマ ウタラ アッカリ フシコ オル 私はより沢山の昔話を話してくれました。  
シペエンヌレ ルウェネ。

ク クルスイカ ソモキ ビールエネ ク 私は飲むことのできないビール  
カリ カ

クエラム イサム コロカ カスノ カネ 困りましたがそれ以上に

クミチ イタク クヌルウェ クエヤイコ 父の話を聞けることがうれしくて日が  
ブンテク クス

シリクンネ コパクサマ クミチ トウラ 暗くなるまで父と外にいました。  
ソイタ クアン。

オアラ シリクンネワチセ オンナイケ すっかり夜になって家に入ると  
タ

アフプ アサクスク ハポ エネ ハウ 母の声がしました。  
キ。

「オヌマン イペアンロー」ハウキルウェ 「夕食にしましょう」  
ネ。

オヌマン イペエトクタワッカタ クキワ 私は夕食の前に水を汲み明日の用意をしま  
ニサッタ クエトコイキ した。

オホンノ オカタ チセコロ ウタラ ウ 久しぶりに家族がそろい夕食を  
エカラパ ワ オヌマンイペ

エウコヌ チャクテク。 たのしみました。

エネ アンチカラ クアニ アナクネ ピ その日はよく眠ることができました。  
リカノ クモコロ ルウエ ネ。

シッチュク ワ クウタリ チセコロ ウ 秋に私たち家族は父に連れられて  
タラ クミチ トウラ ワ

シレコト オッタ パイエアン。 シレトコ半島に行きました。

ネイタ クヌカラ ピリカモシリ クオイ 私はそこで見た大自然を忘れることが出き  
ラ カ エアイカブ ません。

タネ アナクネ イサム カムイモシリ 今はなくなってしまった自然がそこにあり  
オロタ アン ルウエ ネ。 ました。

タネ クミチ オルシペ クオケレ ナ これで私の父の話を終わります。  
ー。

クイエ ウェネウサラ エチヌワ イヤイ 皆さん、聞いてくれてありがとうございます。  
ライケレナー す。